合格おめでとうございます!

日本女子大学　文学部
日本語日本文学科の先輩たちから
あなたへのメッセージです。



日本語日本文学科 公式
マスコットキャラクター
にちぶんちょう

※２０２６年に日本文学科から日本語日本文学科に名称変更しました。

興味を持って飛び込んだ大学での学びが、今の私を支えています。

人と関わることが好きだった私は、言葉や文化のおもしろさに惹かれ、日本語教育を専攻しました。授業や実習では、「正しく伝えること」だけでなく、「相手に伝わるように伝えること」の大切さを学びました。また、短期海外留学に参加し、海外の方と交流しながら日本語を教える貴重な経験もすることができました。

現在の仕事では、外国人の方や障害のある方への対応、制度や専門用語を分かりやすく説明する場面があります。大学で学んだ「相手に合わせて伝える力」や「相手の立場で考える力」が役立っていると実感しています。学生時代には、この学びが今の仕事につながるとは想像していませんでした。

大学には、自分の知らない世界と出会うチャンスがたくさんあります。ぜひ興味のあることに挑戦し、自分だけの学びを見つけてください。今は将来とのつながりが見えなくても、その経験がきっと未来の自分を支えてくれるはずです。

東京都庁　勤務

A.K.（2024年度卒業）

日本語日本文学科は、ただ国語を深掘りするだけではありません。先人たちが紡いできた、そして私たちが日々紡いでいる「日本語」と向き合い、その奥深さを味わう学問だったのだと、卒業して改めて感じています。

大学での学びは、社会人になった今も私を支えてくれています。現在、出版社で営業の仕事をしていますが、日々さまざまな人と話し、自分の言葉で伝える中で、大学時代に日本語や文学と向き合った経験が活きていると感じます。

大学４年間はあっという間です。授業、アルバイト、サークル……。社会人になる前に、さまざまな経験ができる貴重な時間です。

ぜひ自分の「好き」や「気になる」を大切に、思い切り学び、遊び、挑戦してください。何気ない興味が、思いもよらない学びにつながるかもしれません。みなさんにとって、実りある４年間となることを願っています。

株式会社 旺文社　勤務

T.H.（2024年度卒業）

私はコロナ禍に入学し、入学式は中止、授業もすべてオンラインという不安の中で大学生活をスタートしました。入学後、オンラインで行われた学科の交流会では、好きな作家や作品について熱く語る人が多く、「国語が好き」「児童文学に興味がある」という程度だった私は、周囲との熱量の違いに圧倒されたことをよく覚えています。

もしかしたら皆さんにも同じように感じる場面があるかもしれません。ですが、心配はいりません。授業などで、様々な作品や研究に触れるなかで、「もっと知りたい」と思えるものがきっと見つかります。

私自身、日本語日本文学科で学ぶ中で、興味のある分野を深く掘り下げる楽しさを知りました。図書館に通い、資料を探し、考え、文章に落とし、また調べる。頭も足もかなり疲れましたが、不思議と苦ではありませんでした。

是非皆さんにも、そんな「もっと知りたい」という感覚を味わってほしいと思います。

大学で過ごす時間は、思っている以上にあっという間です。先生方のサポートも受けながら、大学を存分に活用し、悔いのない大学生活を送ってください。

皆さんが日本語日本文学科で、学ぶことの面白さに出会えることを願っています。

日本銀行　勤務

W.A.（2023 年度卒業）

私は物語の世界に没入することが好きな子どもでした。成長するにつれ、様々な知識や歴史や価値観を得て、親しんだ物語に新たな見え方や捉え方が見えた時、楽しいぞ、面白いぞと感じ、次第に「もっと知りたい！考えたい！伝えたい！」と考え、日本語日本文学科に進学、現在は高校国語科教員として働いています。

在学中、好奇心の赴くまま様々な講義・演習（時には他学科の授業まで）を受講しました。演習発表や卒論のためにテクスト、先行研究、様々な資料を読み込んで知識を蓄える時間が、知識の点と点がつながって新しい解釈や表現方法に出会ったときのあの瞬間が、今の仕事に生きています。

私が日文で身につけたことは「点と点をつなぐ力」です。今すぐには役に立たないかもしれないけれど、いつかその引き出しを開く時が来るかもしれない。ここで身につけられる知識と思考力、表現方法で、あなたの引き出しをいっぱいにしてみてください。４年間が実り多いものとなりますように。

神奈川県立津久井高等学校　教諭

O.Y.（2018年度卒業）

「私は総合型選抜で来ました。…」

E. M.（４年次）

私は総合型選抜で日本女子大学に入学しました。みなさん期待や不安を胸にご入学されることかと思います。私も入学当初、一般入試で入学する人達との学力差を不安に思っていました。

しかし本学は少人数制の授業も多いため、先生や他の学生とも近い距離感で接することができます。先生に質問しやすい環境がある上に親身になってくれる仲間もでき、その不安は少しずつ払拭されていきました。

大学での勉強は今までとは異なり主体的に臨まなければならず、中学・高校時代とは違う取り組み方に戸惑うこともあるかもしれません。しかし、みなさんの周りには先生、先輩、これからできる学友など心強い味方がたくさんいるので安心してくださいね。

勉強だけではなく部活やサークル、アルバイトなど学生のうちに打ち込みたいことはたくさんあるでしょう。自由にも思える大学生活をどのように過ごすかはみなさん次第です。失敗を恐れずチャレンジ精神をもって頑張ってください！応援しています。

「私は第一志望ではなかったのですが…」

M. H.（４年次）

私はもともと国公立志望で、私立、それも女子大に入るなんて全く考えていませんでした。こんな私でも今では「この学校以外考えられない！」と思うにまで至りました。

授業は少人数体制で先生方が一人一人丁寧に指導してくださいますし、図書館は広くて綺麗だし、正直言って日本文学を学ぶには最高の環境です！また、素敵な友人に出会える環境でもあります。

女子大なので女子しかいません。同性なので話しかけやすく、友達作りには困りませんでした。それに、わざわざ女子大のしかも日本語日本文学科に来るような子はみんなマニアックで面白い子ばかりですよ！お楽しみに！

大学生活はあっという間です。私ももう残り半分もないことに本当にびっくりしています。

私のように第一志望でなかった人も気持ちを切り替え、素敵な女子大ライフを送ってくださいね。

皆さんは今、これから始まる大学生活に、様々な思いを抱えていることでしょう。私自身、それまで共学に通っていたこともあり、「そもそも女子大ってどんな雰囲気？」「日本語日本文学科ってどんなことするの？」「自分についていけるのかな」などたくさんの不安があったことを思い出します。

そうして不安や緊張いっぱいに始まった大学生活ですが、今では文学作品に向き合っていく難しさを実感しつつも、一人一人の様々な考え方や捉え方が広く許容される「国語」という科目の面白さを伝えていきたいという気持ちで教職課程に励んでいます。

正直に言うと、教職課程を卒業までしっかり続けることは、大変でもありますが、先生方の手厚いご指導があり、仲間同士で励まし合い助け合いながら学んでいける環境が整っているので、絶対に努力し続けることができると言い切れます。その中で私は、コミュニケーション力が高まったとともに、人との関わりの大切さ、相手の立場にも立ちながら自分の言葉で伝えていくことの大切さを学びました。

教職課程に限らず、大学では多くの学びが得られ、様々な力が身につきます。そしてそれらは今後の自分の糧に必ずなります。大学生活の中での人とのつながり、多くの経験、その中での学び、全てが貴重です。

それぞれが素敵な4年間を過ごせるよう、充実した環境の中で学べることを大切に思いながら、大学生活を存分に楽しんでください！

「私は教職課程に励んでいます。…」

T. M.（４年次）

私は高校時代を部活三昧で過ごしました。大学では日本史を学びたいという思いがありつつも、勉強を二の次にしていた日々だったので、自然と指定校推薦で行けるところに行くという選択に落ち着きました。その時、見つけたのが日本女子大学の日本語日本文学科でした。日本文学なら日本史とつながる部分があるのではないかという希望を胸に、無事入学しました。

ところが、周りには受験を乗り越えてきた友人ばかりで、自信を無くす日々。皆さんの中にも学力面での不安を抱いている方はいると思います。

しかし、大学での学びに一番必要なのは、「探求心」であると私は思います。文学に対する興味と疑問、それを読み解こうとする姿勢があるかないかで、得られる学びは変わってくるのではないでしょうか。文章を読むのが好きな人、嫌いな人。文章を書くのが得意な人、苦手な人。様々だと思いますが、どんな人も数を重ねることにより、身についていきます。

不安なことがたくさんあると思いますが、置かれた環境のなかで「探求心」を忘れず、有意義な４年間をお過ごしください。

「私は指定校推薦で来ました。…」

A. S.（４年次）

私は、「自分らしさ」を大切にする本校の校風に惹かれ、附属中学を受験しました。「自分らしさ」とは服装や持ち物、お化粧などの"目に見えるもの"だけではありません。自分はどう生きたいのか。

何を学び、何を得たいのか。何を表現したいのか。

私たちの内面、言い換えれば"意志"から生まれるものだと思っています。「周りと同じになる/出来るだけ目立たない」をモットーに生きていた当時の私にとって、「自分らしく」生きる本校の先輩たちの姿はとても輝いて見えました。

そして、その印象は日本語日本文学科へ進学した今も、全く変わっていません。本学科の学生は自身の興味や関心に真っ直ぐで、「自分らしい」意見を、「自分らしい」言葉・「自分らしい」表現で、形にしています。もちろん、入学当初から全ての学生が「自分らしさ」を認識し、自信を持っていたわけではありません。私を含め、本学科での学びや交流を通して、少しずつ、しかし着実に「自分らしさ」を見つけ、磨き続けているのだと思います。

日本語日本文学科では、日本文学だけでなく、中国文学や日本語学、日本語教育学、図書館学など、幅広い分野を学ぶことができます。「面白い」「楽しい」と思える瞬間が、きっとあるはずです。その瞬間を見逃さずに、自分の心のままに、真っ直ぐ、誠実に、学びと向き合ってください。「自分らしさ」を、磨き続けてください。

皆さまの大学生活が実りある日々になりますよう、心よりお祈りしています。

「私は附属出身です。…」

N. A.（３年次）